



カーネル スタック

- [カーネル スタックについて \(1 ページ\)](#)
- [注意事項と制約事項 \(1 ページ\)](#)
- [ポート範囲の変更 \(2 ページ\)](#)
- [kstack を使用した VXLAN について \(3 ページ\)](#)
- [ネットデバイスのプロパティの変更 \(4 ページ\)](#)

カーネル スタックについて

カーネルスタック (kstack) は、既知の Linux API を使用してルートとフロント パネル ポート を管理します。

オープン コンテナは、ゲスト シェルと同様に、ホスト ソフトウェアから分離された Linux 環境です。ホスト ソフトウェア パッケージに影響を与えることなく、その環境内でソフトウェアをインストールまたは変更できます。

注意事項と制約事項

- ゲストシェル、Docker コンテナ、およびホスト Bash シェルは、カーネルスタック (kstack) を使用します。
- ゲストシェルとホスト Bash シェルは、デフォルトのネットワーク名前空間で開始されます。Docker コンテナは、デフォルトで管理ネットワークの名前空間で開始されます。
 - 他のネットワーク名前空間には、**setns** システムコールを使用してアクセスできます。
 - **nsenter** および **ip netns exec** ユーティリティは、異なるネットワーク名前空間のコンテキスト内で実行するために使用できます。
- インターフェイスの状態は、`/proc/net/dev` から読み取るか、**ip**、**ifconfig**、または **netstat** などの他の一般的な Linux ユーティリティを使用して取得できます。カウンタは、スイッチで開始または終了したパケットに関するものです。

- **ethtool -S** は、インターフェイスを介してスイッチングされるパケットを含む、ネットデバイスから拡張統計情報を取得するために使用できます。
- **tcpdump** などのパケット キャプチャ アプリケーションは、スイッチで開始または終了するパケットをキャプチャできます。
- ゲストシェルからのネットワーク状態の変更（インターフェイスの作成または削除、IP アドレスの構成、MTU の変更など）はサポートされていません。
- IPv4 と IPv6 がサポートされます。
- Raw PF_PACKET がサポートされています。
- ネットワーク名前空間に関係なく、一度に 1 つのスタック（Netstack または kstack）でのみ、ウェルノウンポート（0 ～ 15000）を使用できます。
- 同じスイッチ上でも、Nestack を使用するアプリケーションと kstack を実行するアプリケーションの間に IP 接続はありません。この制限は、kstack アプリケーションがホスト Bash シェルから実行されているか、コンテナ内で実行されているかに関係なく当てはまりません。
- ゲスト シェル内のアプリケーションは、ライン カードまたはスタンバイ Sup との通信のために、イーサネットアウトオブバンドチャネル（EOBC）インターフェイスを介してパケットを直接送信することはできません。
- 管理インターフェイス（mgmt0）は、カーネルネットデバイスで eth1 として表されます。
- カーネルスタックを使用するアプリケーションでは、VXLAN オーバーレイ インターフェイス（NVE x）の使用はサポートされていません。CLI コマンドを含む NX-OS 機能は、netstack を介してこのインターフェイスを使用できます。

NVE インターフェイスの詳細については、[Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS VXLAN 構成ガイド](#)を参照してください。

ポート範囲の変更

Netstack と kstack は、それらの間のポート範囲を分割します。デフォルトのポート範囲は次のとおりです：

- Kstack : 15001～58000
- Netstack : 58001～65535



(注) この範囲内で、63536～65535 は NAT 用に予約されています。



(注) **nxapi use-vrf management** で構成されたポートは kstack を使用し、アクセス可能です。

手順の概要

1. [no] sockets local-port-range start-port end-port

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	[no] sockets local-port-range start-port end-port	このコマンドは、kstack のポート範囲を変更します。 このコマンドは、Netstack の範囲を変更しません。

例

次に、kstack ポート範囲を設定する例を示します：

```
switch# sockets local-port-range 15001 25000
```

次のタスク

コマンドを入力した後は、次の点に注意してください：

- コマンドを入力した後は、スイッチをリロードします。
- Netstack で使用される 7000 以上のポートを、未割り当てのままにします。
- ポート範囲に抜けが生じるのを回避するには、*start-port* を 15001 に指定するか、*end-port* を 65535 に指定します。

kstack を使用した VXLAN について

NX-OS 9.2(1)以降、VXLAN EVPN は kstack でサポートされ、サードパーティ製アプリケーションで活用できます。この機能は、Cisco Nexus 9000 ToR スイッチでサポートされています。

kstack のための VXLAN のセットアップ

VXLAN EVPN のインターフェイスまたはネットワーク名前空間にサードパーティアプリケーションからアクセスできるようにするために、追加の構成は必要ありません。VXLAN EVPN ルートは、NX-OS VXLAN EVPN 構成に基づいてカーネルで自動的にプログラムされます。詳

細については、Cisco Nexus 9000 シリーズ NX-OS VXLAN 構成ガイドの「VXLAN BGP EVPN の構成」の章を参照してください。

kstack での VXLAN のトラブルシューティング

VXLAN の問題をトラブルシューティングするには、次のコマンドを入力して、収集するべきいくつかの重要な情報を一覧表示します。

```
switch(config)# show tech-support kstack
```

- **ip route show** コマンドを実行します：

```
root@switch(config)# run bash sudo su-
root@switch# ip netns exec evpn-tenant-kk1 ip route show
```

次のような出力が表示されます。

```
10.160.1.0/24 dev Vlan1601 proto kernel scope link src 10.160.1.254
10.160.1.1 dev veth1-3 proto static scope link metric 51
10.160.2.0/24 dev Vlan1602 proto kernel scope link src 10.160.2.253
127.250.250.1 dev veth1-3 proto static scope link metric 51
```

対応する VRF のすべての EVPN ルートがカーネルに存在することを確認します。

- **ip neigh show** コマンドを実行します：

```
root@switch(config)# run bash sudo su-
root@switch# ip netns exec evpn-tenant-kk1 ip neigh show
```

次のような出力が表示されます。

```
10.160.1.1 dev veth1-3 lladdr 0c:75:bd:07:b4:33 PERMANENT
127.250.250.1 dev veth1-3 lladdr 0c:75:bd:07:b4:33 PERMANENT
```

ネットデバイスのプロパティの変更

NX-OS 9.2(2) リリース以降、フロント チャネル ポート インターフェイスを表すネットデバイスは常に ADMIN UP 状態です。最終的に有効な状態は、リンク キャリアの状態によって決まります。

次に、NX-OS の以下のインターフェイスの例を示します。eth1/17は**up**として表示され、eth1/1は**down**として表示されます。

```
root@kstack-switch# sh int ethernet 1/17 brief
Eth1/17      --      eth   routed up      none      1000 (D)  -

root@kstack-switch# sh int ethernet 1/1 brief
Eth1/1      --      eth   routed down    Link not connected    auto (D)  -
```

次の例は、これらと同じインターフェイスを示していますが、今回は **ip link show** コマンドを使用して Bash シェルに表示しています。

```
bash-4.3# ip link show Eth1-17
49: Eth1-17: <BROADCAST,MULTICAST,UP,LOWER_UP> mtu 1500 qdisc pfifo_fast state UP mode
DEFAULT group default qlen 100
    link/ether 00:42:68:58:f8:eb brd ff:ff:ff:ff:ff:ff

bash-4.3# ip link show Eth1-1
33: Eth1-1: <NO-CARRIER,BROADCAST,MULTICAST,UP> mtu 1500 qdisc pfifo_fast state DOWN
mode DEFAULT group default qlen 100
    link/ether 00:42:68:58:f8:eb brd ff:ff:ff:ff:ff:ff
```

この例では、Eth1-1 は **UP** として示されていますが、**NO-CARRIER** および **state DOWN** として示されています。

次の例は、これらと同じインターフェイスを示していますが、今回は **ifconfig** コマンドを使用して Bash シェルに表示しています。

```
bash-4.3# ifconfig Eth1-17
Eth1-17  Link encap:Ethernet  HWaddr 00:42:68:58:f8:eb
          UP BROADCAST RUNNING MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:7388 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:100
          RX bytes:0 (0.0 B)  TX bytes:1869164 (1.7 MiB)

bash-4.3# ifconfig Eth1-1
Eth1-1    Link encap:Ethernet  HWaddr 00:42:68:58:f8:eb
          inet addr:99.1.1.1  Bcast:99.1.1.255  Mask:255.255.255.0
          UP BROADCAST MULTICAST  MTU:1500  Metric:1
          RX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 frame:0
          TX packets:0 errors:0 dropped:0 overruns:0 carrier:0
          collisions:0 txqueuelen:100
          RX bytes:0 (0.0 B)  TX bytes:0 (0.0 B)
```

ifconfig コマンドの出力には、さまざまな情報が表示されますが、**RUNNING** キーワードを使用して最終的な状態を示すことができます。デフォルトでは、すべてのネットデバイスにキーワード **UP** が表示されます。これは、カーネル内のネットデバイスの **ADMIN** 状態を表します。

NX-OS 9.2(2) リリースの一部である変更点は次のとおりです。

- **ネットデバイスの IPv4 アドレス** : NX-OS 9.2(2) リリースより前は、NX-OS の対応するインターフェイスが **DOWN** 状態であっても、IPv4 アドレスはカーネルのネットデバイスに組み込まれていました。NX-OS 9.2(2) リリース以降、IPv4 アドレスは、インターフェイスが **UP** 状態の場合にのみカーネル空間に組み込まれます。いったん組み込まれると、インターフェイスが **DOWN** になっても、IPv4 アドレスはカーネル内のネットデバイスに残ります。次の CLI コマンドを入力して、NX-OS インターフェイスから IP アドレスを明示的に削除した後にはのみ削除されます。

```
Interface Eth1/1
    no ip address IP-address
```

- **ネットデバイスの IPv6 アドレス** : NX-OS 9.2(2) リリースより前は、インターフェイスが **DOWN** になると、IPv6 アドレスはカーネルのネットデバイスからフラッシュされていた

した。NX-OS 9.2(2) リリース以降、ネットデバイスは常に管理 **UP** 状態であるため、インターフェイスがダウンしても、IPv6 アドレスはカーネルからフラッシュされません。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。